

あした

明日もしあわせ通信 (第81号) 令和5年3月号

仰げば尊し

3月は卒業式のシーズンである。私が好きだったこの曲は今でも歌われているだろうか？



過日、半世紀ぶりの小学校の同窓会があった。恩師も数名お招きし、皆で当時の思い出を和気あいあいと語らった。先生方も当方も老境にあるのだが、昔と変わらぬ先生と生徒の関係での口調がなんだか面白かった。

小学校では多くのことを学んだ。授業以外にも、大切なことをいっぱい教わった。先生、同級生、上級生、下級生との幅広い交友は、社会に出て円滑な人間関係を築くための重要なトレーニングだった。授業中の恩師の「よもだ話」は処世訓として役に立ったし、人間関係の機微は時に腕力が幅を利かせる友達との遊びの中で覚えた。

もちろん、子ども心にも辛いことがあって登校したくないと思った時もあったが、当時、その選択肢は全く与えられていなかった。

今、不登校が増えている。小中学生だけでも約24万人もの多くの子どもたちが傷つき、不登校という手段に訴えている。学校に行きたいのに行くことができないこの子たちをどうやれば救えるのか？



「登校自体がストレス。学校へ行く必要はない。いつでもどこでも学ぶことはできる。」という意見もある。知識だけならリモートでもタブレットでも得ることはできるだろうが、学校教育で得られるものはそれだけではないだろう。

不登校の原因はそれぞれ違うため万能薬はない。学校の先生方も本当に苦慮されていることと推察する。文科省は今年度内にも新たな不登校対策の指針をまとめるとのことなので、その効果に期待したい。

本当に辛いのは当の子どもたちである。この子たちが遠い将来、同窓会で恩師や旧友と語らう日が来ることを心から願う。(T.K)

適応指導教室「はばたき」～どんな勉強でもいい。自分のやりたい勉強をしよう～

今年度も後1か月となりました。今年度も不登校になってはばたき教室に通う子どもが少しずつ増えています。

初めはもう自分はどうでもいいと自分の存在までも否定し、勉強への意欲もなくしてしまう子もいましたが、やがて、少しずつ変化が見られるようになりました。

3学期に入って、子どもたちは英語検定の学習をする子、漢字検定の学習をする子、高校入試の問題集をする子など自分で勉強する内容を選択し、自分の必要感に迫った勉強をする子が増えてきました。何と自分から集中して勉強に取り組んでいるのです。

本来なら宿題なども「しなくてはいけないからする。やらされている。」という気持ちで仕方なくしているところがありますが、漢字検定や英語検定に向けての学習は、「自分で頑張っ合格したい。」という目標をはっきり持っているので、子どもたちの表情も真剣です。

どんな勉強でもいいと思います。目的をもってコツコツと取り組んでいると、いつの日か自分が目指す大人に成長し「自分だけの心の花」も咲くと願っています。



名は体を表す

「名は体を表す」とは、名前はその物や人の性質や実体をよく表すものだという意味ですが、私がまさに名前どおりの人物だと思う人がいます。

それはフィギュアスケートで活躍している羽生結弦(はにゅうゆづる)選手です。彼が生まれた時に、中学校の教師である父親は、『弓の弦(つる)を結ぶように凜とした生き方をしてほしい。』との願いを込めて結弦(ゆづる)と名付けたのです。

2歳の時に小児喘息を発症した結弦君にとっては、スケートは屋内競技でホコリを吸い込むことも少なく、まさにぴったりのスポーツであり、家族は一丸となって結弦少年を支えたのです。

フィギュアスケートは、レッスン費用に加えリンクのレンタル料、スケート靴や衣装代、大会の遠征費用など数百万円単位の高額な費用を要する

スポーツです。羽生家は決して裕福な家庭ではなく、家賃5万円の県営住宅に住み、試合の衣装は全て母親が手作りしました。姉は大学受験を辞め、スケートリンクに勤めて弟のサポートに徹したのです。

家族のサポートを受けて冬季オリンピックの2連覇など目覚ましい活躍をしましたが、昨年7月19日に記者会見を開き、これからはフィギュアの競技会からは引退し、プロのスケーターとして活動することを発表しました。

今後はプロスケーターとして、凜とした姿で活躍する結弦(ゆづる)君を応援したいと思います。

以上、「ことわざシリーズ⑨」でした。(E・F)



センター長のつぶやき

思い出の歌(2)「虹」森山 直太郎

平成18年久万高原町の全校生徒27人という中学校に赴任した。

ここでは全校生徒が、県中学駅伝に出場し、NHK学校音楽コンクール(合唱)にも出場していた。私は学校のテーマを「走る・歌う」とした。

コンクール地区大会では、課題曲「虹」(森山直太郎作詞作曲)を歌った。結果、金・銀賞には遠く及ばなかった。

昼休みや放課後、全校生徒が必死に二つの活動に燃え、それを支える先生



方の姿にいつも感動をいただき、感謝の念でいっぱいだった。ご褒美はあるもので、平成19年森山直太郎が全国ツアーを開催。各開催地ではコンクールに参加した学校とコラボするコーナーが設けられた。申し込み殺到のなか、なんと愛媛県で選ばれたのが我が中学校だった。

4月20日開催。中心メンバーは高校に進学し、集まった子たちは、制服もばらばらだった。16時から直太郎さんと2時間のリハーサルで至福の時間を過ごし、本番でも、立派なハーモニーで感動のステージを終えた。その時の歌声を今でも車中で聞いている。

本番で直太郎さんと巧みな会話で盛り上げた男の子は、現在久万高原町の道の駅「天空の郷・さんさん」で、あの時の笑顔で接客をしている。(DOIG)

《発達支援巡回相談》 ～春のにおい～

マスクを外せるようになり、子どもたちの活動も活発になってきたことでしょう。幼少期は五感をフルに発揮して体験活動することが大切ですが、コロナとマスク生活で十分に働かせることができませんでした。なかでも、マスク生活において、嗅覚は大きな影響を受けたのではないかと思います。

心地よい香りは、気分をリフレッシュさせたり、心を落ち着かせてくれたりします。

また、においで遠い昔の記憶を呼び起こし、懐かしさに浸ることもありますね。

スイセン、菜の花、梅、桃、草木、土・・・色とりどりの春の香りが出番を待っています。子どもたちをそばに寄せて、においを嗅がせてみてください。いろんな発見をすることでしょう。楽しみですね。

(k)



伊予市子ども総合センター

〒799-3127伊予市尾崎3-1

伊予市総合保健福祉センター2F

☎989-6226

